

「上毛新聞」文芸関連記事リスト【2】

大正12年(1923)4月～大正13年(1924)3月

市川祥子

※「上毛新聞」の中から、小説・詩歌等の創作と、文芸に深く関わりと考えられる評論とをリストアップした。「上毛こども新聞」については投稿以外を対象とした。今回は、大正12年(1923)4月から13年(1924)3月を対象とした。

※連載は初回のみを示し、(一)に終了日と回数とを付した。

※①は第一面であることを、②は「上毛こども新聞」の第一面であることを示す。

※(1)は第一回であることを示す。
 ※*は判読が不能であることを示す。

大正12年(1923)4月

1日(日)

③四月の河岸の話「童話」 俵藤三郎

④少女達よ 船出の前に 戸井田吉夫

④愚者の恋愛観 リスペクするM兄に 文屋六老

④彼女の日記 逝きしHSの霊に 以久二

④厭生者の部屋「詩」 伊藤信吉

④避病舎の春 伯父夫妻の霊に捧ぐ、哀吟の

春、春の鳥よ、花曇り「詩」 暮路京之助

④早春の丘「詩」 大槻三好

④捕虜「詩」 豊田宏文

④橋の上で「詩」 真下清

④雨の玉、葱坊主、椿、こども、庭の雨、つくし、つばめさん「詩」 Y

④寂しき早春「短歌」 松村清

④柳子に捧ぐ「短歌」 冬子

④早春の折々「短歌」 東陽

④春のたそがれ「短歌」 柘植与一郎

④気まぐれ歌「短歌」 吉野軍也

3日(火)

④国立公園の意義を闡明し民衆公園との特色と条件とを説く 国府犀東

6日(金)

④優良児と健康(1) 沼田笠峰 (1)まで確認

④子供に影響する夫婦間の愛情の有無(1) 杉田直樹 (1)まで確認

④春の感傷「短歌」 萩原正 (1)まで確認

7日(土)

④歌壇の権威(1) 徳江亥之助 (1)まで確認

8日(日)

③童話の選択 塩谷重常

④夢の国「詩」 島吉之助

④幻影を追ふもの 木村武重

④独語と語黙 Y

④酔ふ夜、兄の家「短歌」 真下清

④病院の春「短歌」 松村清

④結婚前「短歌」 天田与一

④春雨「短歌」 羽鳥健子

④この心臓の主「詩」 深沼火魯胤

④前橋公園の噴水 幻想詩集「詩」 若い男の歌、魔女の声、神様の独言、小娘の微な囁き、魔女の声、若い男の嘆息、大鐘の余音

清水房之丞

④沈黙の燈火「詩」 角田清次郎

④機織娘「詩」 萩原正

④仁丹の広告燈、工場の煙突「詩」 暮路京之助

11日(水)

③水平社と国粹会 原弘

④恋の運命「短歌」 原沢藤孫

12日(木)

③臆病な小犬「童話」(1) 水野春月

④美の追求 日記より(1) 大竹好太郎

(1) (1)まで確認

(1) (1)まで確認

(1) (1)まで確認

(1) (1)まで確認

13日(金) (〜4月13日(2))

③鼻歌養蚕法(1) 桑島定助 (〜4月27日(7))

④租税制度の理想と我現行租税に就て(1) 竹内徳治 (〜4月21日(6))

④生活の改良は主婦の自覚に俟つ(1) 鳩山春子 (〜4月14日(2))

14日(土)

④ヒユウマニチイの短歌に就いて橋田東声先生に寄す(1) 久保田阿礼卑 (〜4月18日(4))

15日(日)

⑤追憶と祈願 房子内親王殿下御事 香雨

17日(火)

③ある日の学校 卒業から入学まで

③赤い帽子「童話」 伊東英子

④三千年の其の昔を今の世界に比べて(1) 木村泰賢 (〜4月24日(4))

19日(木)

④子供の生活に映る親の影(1) 左近義弼 (〜1)まで確認

21日(土)

④胡蝶姫(1) 小松みどり (〜4月26日(2))

22日(日)

④黒の死(少年小説) 吾妻原町校 梅沢正一

④浅間山と富士山 新里本校 岩崎静雄

④金蔵院の貂 伊勢崎校 斉藤良輔

④忠吉忠子 細井校 浦田安義

④コドモ歌壇「短歌」 吾妻東校 佐藤豹衛 他

④柳芽吹くやなぎ他「童謡」 島之郷校 清水ヤイジ 他

④野に咲くお目々の雨他「童謡」 桃井校 根岸みな他

④鬼の面(童話劇) 伊香保校 松田栄一

④たうがらし取り他「綴方」 新里本校 岩崎静雄 他

24日(火)

③近江の国の片輪車(1) 長尾豊

⑤蚕の国日本から(1) 小松晋助 (〜4月29日(5))

27日(金)

③猿の心(1) 西塔香 (〜5月2日(4))

29日(日)

③谷の運動会「童謡」 葛原シゲル

④或女教師のヒロイズム 浦野芳雄

④四人集「短歌」 春雨 萩原正、異郷の弟に 柘植与一郎、春日傷心 大槻三好、朝梅沢周一

④春の黄昏「短歌」 羽鳥露芳枝

④熱病の幻夢「詩」 火焰、深夜の怪音、悲しき幻夢、幻惑する狂友、墓場の寢室 伊藤信吉

④虚無の火焙り「詩」 深沼火魯胤

④色めく列車「詩」 清水房之丞

④芽ぐむ春、野辺の若草「詩」 関根四五良 大正12年(1923) 5月 1日(火)

④高山正之肖像考(1) 渡辺武助

④春の山「詩」 川村仙兵衛 (〜5月8日(5))

④天気「詩」 佐藤鳳

④玩具に就て 玩具も教育の力あり 赤ん坊の玩具は単純で粗野なのがよい 巖谷小波 (談)

2日(水)

③教育行脚(1) 三神如水 (〜5月4日(3))

④子供とお伽噺(1) 久留島武彦 (〜5月4日(3))

④海こひし「短歌」 暮路京之助

3日(木)

③王様と鶯「童話」(1) 大木雄三 (〜5月16日(8))

6日(日)

②朝鮮から支那へ(1) 香雨、蕭々子 (〜6月2日(22))

③ボーイスカウトの話 三島章道

③つゆ「詩」 く*はらしげる

③獅子を餓死させた男 近藤経之助

④詩集耽視之序 高橋元吉

④現文壇の貴族的傾向を難じプロレタリア文学の完成を期す 高山巖

④春宵集「短歌」 雨の日の歌 柘植与一郎、春雨 岡田好之助、春愁 鈴木葦舟、教へ子 冬子、山と海と 豊田宏文、汝弱き女よ 尚村太、祖母の追憶 羽鳥露芳枝、悲しき時 木村紫陽花

④幻滅の勝利と悲哀「詩」 清水房之丞

- ④ 杉林の陰鬱、小唄新調、すみれ、さくら、穴の蛇、うきよ、春「詩」 暮路京之助
- ④ 朝の光、自由に「詩」 萩原正
- ④ 死人の顔より取りたる塑に「詩」 吉野陽
- ④ 春「詩」 はるき
- 7日(月)
- ② 松田君の死に就て 原弘
- 9日(水)
- ② 松田氏の死を弔ひ生前の知己の一人下村紅雲翁の曰く(1) 正木 (〜5月9日②)
- ④ 総てを忘れて露西亜と手を取れ 三宅雄二郎
- ④ 時代に適應した囚人の待遇を研究する司法省の新しい企て 平沼大審院長を会長に
- ⑤ 箱根より 北甘閑人
- 11日(金)
- ④ 子供達に味方してこの貧しい一篇を、再びM兄に捧ぐ 文屋六老
- 12日(土)
- ④ 欧州戦乱以後の物価と賃銀(1) 山崎寛次郎 (〜5月18日④)
- ④ 農人独語 夢野草二
- 13日(日)
- ③ 子供に与へる絵本に就いて(1) 水野葉舟 (〜6月3日③)
- ③ 汽車が登る「詩」 クヅハラシゲル
- ③ 光ちゃんのお手紙「童話」 伊東英子
- ④ ロマン、ロオランの真勇主義を論ず シャン

- ④ 人生の悲劇役者「詩」 抽条仙
- ④ 曇天の雀「詩」 柘植与一郎
- ④ 湯宿の朝「短歌」 中村芳太郎
- ④ 出産を祝ふて「短歌」 梅沢周一
- ④ 老軍人の結婚の想ひ出 綿貫六助
- 16日(水)
- ③ 箱根スケッチ(1) 北甘閑人(〜5月19日④)
- ④ 甘く子供を育てる秘訣 巧に子供の本能を善用せよ(1) 梶谷俊三 (1)まで確認
- ④ 春駒大五郎「小説」(1) 方楽斎福南(演)
- ④ 銀の鳩「童話」(1) 真山晃一 (〜5月31日①)
- 17日(木)
- ③ 桐生哀歌 竹松葉の金龍(1) (〜5月20日③)
- 18日(金)
- ④ 優良児を作らんとすれば更に体育を盛んにせられよ 斎藤春二
- 23日(水)
- ④ 十九世紀末から台頭せる欧米の倫理運動と我が神道の前途に就て(1) 井上哲次郎 (1)まで確認
- 24日(木)
- ③ 名胡桃城址(1) 秋山吉次郎(〜5月26日③)
- ④ 似て非なる社会改革家を排す(1) 山田わか (〜5月29日③)
- 26日(土)
- ③ いなのめ会選句「俳句」 新樹 歌男、茂

- 樹、燕青、仲春、如友、雨亭、一枝、香山、曉風、苔香坊、雨舟／香水 香山、雨亭、歌男、曉風、仲春
- ③ 海の彼方に憧れて「詩」 佐々木指月
- 27日(日)
- ◇ 小人「童話」 新里本校高一 岩崎静雄
- ◇ 猫と鼠「童話」 伊香保校尋六 森田素夫
- ◇ 籠洗ひ 下川淵校高一 岡本義雄
- ◇ 百姓 毛里田校尋四 岡田タネ
- ◇ 僕が泣いた時 下川淵校高一 新井安衛
- ◇ 種子まき 粕川校高一 後閑庚象
- ◇ 此の頃 中室田校 小板橋保一
- ◇ 夕方他「詩」 吾妻東校 神辺波江 他
- ◇ 銀笛 橋の上他「童謡」 中室田校 清水わぐり 他
- ◇ コドモ歌壇「短歌」 細井校 豊島兼* 他
- ◇ 木の実 雲雀 他「童謡」 毛里田校尋六 関山勇 他
- ◇ 子ねこ 猫 他「童謡」 桃川校尋四 江利川直恵 他
- ◇ どちらよう取り 他「綴方」 吾妻東校尋五 上原加一 他
- 28日(月)
- ③ 娯楽より必需品へ(2) 東宮一雄(談) (〜5月29日③)(2)から確認
- 29日(火)
- ④ 提灯持 粕川校高一 斎藤好太郎
- 31日(木)
- ④ 勃牙利人の女性観 男の生氣と女の待遇法

- ④家のはにとり「詩」 尋四 清水正子
- ④お天とさま「詩」 尋三 神田静
- ④上毛歌壇四月抄「短歌」 鈴木葦舟、野口市野、冷平、柳沢千弘、篠原隆子、大槻三好、豊田宏文、角田穂二、梅沢周一、亜良木茂、羽鳥健男、松村清、山田六郎
- 大正12年(1923) 6月 1日(金)
- ①江戸屋小金「講談」(1) 大河内翠山 (9月30日(99)〈中絶〉)
- ③県人よ! 須らく奮躍 満州に往け(1) (6月14日(10))
- ③コンコン狐「童話」(1) 小松みどり (6月6日(3))
- ④田園詩章、豌豆畑にて「詩」 萩原正二(土)
- ④忘れられた準備 結婚と恋愛に就て(1) 安部磯雄 (6月6日(2))
- ④五月の夜、麦笛「詩」 豊田宏文 3日(日)
- ④新興文学に対する一考察 自我の意識より 創造へ 高山巖
- ④船出は悲し「詩」 船出は悲し、海にあれば、あの頃の事 戸井田吉夫
- ④都会擬視曲「詩」 清水房之丞
- ④一つの宝玉「詩」 萩原正
- ④神にたよるの 小林綾子
- ④乙女塚「詩」 金子梅子
- ④或デカタン令嬢の話(1) 宇女子
- ④酒「詩」 篠原隆子 (1)まで確認
- ④喜び「詩」 沢すみ子
- ④木枯「詩」 谷ゆり子
- ④彼岸ざくら「詩」 大木照子
- ④四人集「短歌」 紅ぼら、南金玉 登丸玉子、木苺の花 塚田喜代、吾が背の病 平野みわ、初夏断篇 篠原隆子
- ⑤篠原兄より鮮支漫遊土産を戴いて「川柳」 北甘閑人
- 5日(火)
- ⑤上毛美人伝 恋の落武者(1) 水村 (8月4日(49))
- 6日(水)
- ①闇の光「小説」(1) 遠藤柳雨 (9月11日(94)〈中絶〉)
- ③満鮮地方視察記(1) 香雨 (8月16日(54))
- ④農村振興方策と肥料官営論 小林丑三郎 7日(木)
- ③目白の家「童話」(1) 内山頼四郎 (6月23日(10)まで確認)
- ④性交及び貞操(1) 中桐確太郎 (6月8日(2))
- 8日(金)
- ④母の病めれば「短歌」 天田与一 9日(土)
- ④民族後継者として子供は国の宝 児童保護の東西比較 生江孝之談
- ④急流に泳ぐ「詩」 大槻三好
- 12日(火)
- ④第五回教育大会より(1) 読方教授に於ける文章の音声化 増田穂積
- ④生甲斐ある生活 諸橋絢子
- ④若き日「詩」 若林富久子
- 13日(水)
- ④第五回教育大会より(2) 文学的教材の意義 並に鑑賞に就て(1) 山丸龜雄 (6月21日(5))
- ④観念、うれひもてる女「詩」 伊藤信吉 14日(木)
- ④いなめの会「俳句」南風 雨亭、香山、仲春、苔香坊、雨村楼、晓風、燕青、一枝、歌男、南華、蘇水、亮、萩郎、碧雨/蟻歌男、香山、一枝、萩郎、晓風、仲春、南華、碧雨、苔香坊、亮、雨村楼、雨亭 16日(土)
- ④生活改善の意義(1) 棚橋源太郎 (1)まで確認
- ④童謡を通じて見た子供の自然観賞 大人の深刻さは無いが直覚的で驚くべき進歩 原白秋(談)
- ④哀れな旅人「詩」 須川星香 17日(日)
- ③満鮮土産(1) (7月18日(23))
- ④「耽視」を読んで 茂木寛
- ④づくしんぼ「童謡」 奈良宇太次
- ④月の出る夕暮「詩」 岡田刀水士
- ④日本帝国の激怒「詩」 深沼火魯胤

- ④日様へ「詩」 Y A
 ④病む父の看護「短歌」 真下清
 ④春の日 大沢雅休
 18日(月)
 ③問題が年毎に多くなり社会的自覚を来した
 女教員間の思想は進歩向上した 豊島学
 務課長(談)
 19日(火)
 ④魅力のない学校教育を芸術的に進めたい
 今日の子供の心は何を求めるか 北原白秋
 (談)
 21日(木)
 ④幸「短歌」 小山芽路
 ④校庭「短歌」 梅沢周一
 ④生をいとむ歌「短歌」 はるき
 22日(金)
 ④改善の実行をした私の娘の嫁入仕度(1) 棚
 橋源太郎 (〜6月28日(3))
 ④児童劇は役者根生の媒介者だと批難の声も
 あるが題材の選択次第で好結果を齎すもの
 徳江孝三郎
 24日(日)
 ③炭焼夫婦「童話」(1) 西塔香 (〜6月27日(3))
 ④女性の群へ 雨小路毒二
 ④目の前に消江ない二人「詩」 深沼火魯胤
 ④悲劇風景「詩」 岡田刀水士
 ④田園小品「詩」 萩原正
 ④四人集「短歌」 旅太田、伊香保 牛口善
 衛、雑誌 鈴木如友、裾野 木村禎二、心
 足らへり 天田与一
 ④瞬動の世界と未来派芸術 佐藤雪夫
 25日(月)
 ②北京から 香雨老台虎皮下 福田和五郎
 26日(火)
 ④声を立て、泣くほどの感激は「詩」 須川
 潤花
 ④春は徂く「詩」 石川清朗
 27日(水)
 ②世界の社会運動と日本民友社(1) 阪本利郷
 (〜6月29日(3))
 ④雨の赤城登山「短歌」 箕輪の辺にて、新
 坂原、春木旅館にて 永井
 ⑤謎の美人 すずらんの女将(1) 一記者
 (〜6月28日(2))
 28日(木)
 ③或俐功者の話「童話」(1) 大木雄三
 (〜7月13日(9))
 ④復讐といふ観念から訴訟を起す婦人多く
 は感情的に進んでゐる 片山哲夫
 29日(金)
 ④銭湯小観(1) 芋右衛門 (〜7月6日(4))
 ④私の画面「詩」 傷々花
 大正12年(1923) 7月
 1日(日)
 ④暴風の前 豊田宏文
 ④宿命のつな「詩」 藤井伝次郎
 ④流れ雲 川辺潤三郎
 ④夕暮の情景 中村芳太郎
 ④児等に寄す、いさかいし児に「短歌」 大槻
 三好
 ④小さい詩四つ「詩」使者、私の情熱、朝、
 絶望 不二原健
 ④牧歌めいた話「詩」若き羊飼の唄、老牧人
 の唄 清水房之丞
 ④路上の靈魂「詩」 岩城寂路
 ④初夏の野に立ちて「詩」 萩原正
 ④無題「詩」 名無草
 3日(火)
 ②十人並の子供は教育次第で非凡になる低
 脳も悔る事は出来ぬ 越川女子師範学校長
 (談)
 ④山の趣味の宣伝 夏の登山者へ(1) 楨有恒
 (〜7月4日(2))
 ④椿の花「短歌」 梅沢周一
 4日(水)
 ②日本農民党の根本政策を明かにす(1) 阪本
 利郷 (〜7月8日(5))
 ④体育の発達と同時に地方青年の副業を奨励
 す(1) 田中萃一郎 (〜7月6日(2))
 ④闖入者「小説」(1) 佐竹幸太郎 (〜7月12日(5))
 7日(土)
 ④景気不景気に左右される売笑婦の増減人
 権問題の上からも是れが存在は痛恨事(1)
 横山勝太郎 (〜7月12日(3))
 ④児童と音楽教育 如何に現在の児童に音楽

を普及させるか? 吉田顕雄

④母としての本務 日本婦人の自覚すべき途
加藤寛治

8日(日)

④美術裸体作品問題 堤松太朗

④父の印象 山辺寛

④流れ雲 川辺潤三郎

④緑蔭閑語 赤城楓湖

④機をる妻「短歌」 鈴木葦舟

④淋しきものゝ歌へる、教へ子「短歌」 神辺

彰江

④獄舎参観「短歌」 岡庭都二

④小さな倦怠「詩」 前原美春

④思ひ出の海「詩」 五十嵐かのえ

④惜春詩篇「詩」 柘植与一郎

④民謡二篇「歌謡」何しに来たと、汽車のわ

かれ 暮路京之助

9日(月)

②有島武郎氏情死 愛人と軽井沢別荘にて／

空別荘へ忍込み 六月中旬頃の縊死か 相手

の女美装してゐる／相手婦人は奏前次官親類

死因は依然として不明／如何に戦つても此

の運命から逃れる事は出来ぬ 遺書発表

10日(火)

②有島氏の告別式 九日その本邸で 愛人波多

野秋子氏と別々に

11日(水)

③美貌で男を誘惑する婦人記者 有島氏にも
女から情死迫る

④斯くして誘惑 若い女の流行かぶれが異性
の好奇心を挑発す

④思出のまゝ(1) 沖野岩三郎(7月13日(3))

④女性の思考と意思 下田次郎

12日(木)

③世界の赤衛団 白衛テロに憤激す(1) 阪本

利郷 (7月18日(5))

③夏の衛生「歌謡」 岡部

④婦人は男子より感情が強い多情多根性で

あるから従て意識の範囲が狭い 下田次郎

13日(金)

④児童の創作教育として粘土細工を薦む(1)

7月14日(2)まで確認

14日(土)

④燈台夜話(1) ST (8月14日(13))

④夏近し「短歌」 柘植与一郎

15日(日)

③有島氏追悼歌会

17日(火)

③お姫様と若者「童話」(1) 水野春月

(7月27日(4))

18日(水)

②情死男の名文が中等校教科書中にある文

部省でも削除説起る

④近時実業界に台頭せる商工党の組織に就い

て 上田貞次郎

19日(木)

②有島氏の死にかぶれ女学生の自殺

22日(日)

◇白鳥の死「童話」 附属校六 高橋ゆう

◇猫「童話」 尋三 富沢秀雄

◇うちのひよこ 他「綴方」 佐和豊 他

◇人形の家もちつき 他「童謡」 中室田校

高一 石井さかゑ 他

◇北の国からお山の小鳥 他「童謡」 北海

道常呂郡武華校尋五 大谷もと子 他

◇赤と黒 中室田校尋五 森トヨ子

◇にわとり 他「綴方」 吾妻東校 浅見あき

他

◇愛児の歌「短歌」 粕川校高一 神山友市

他

◇初夏の村里「短歌」 細井校高二 関井栄政

他

◇つゝじ 他「綴方」 城南校尋四 川口米子

他

◇生れ故郷のアメリカから日本の教育を受け

に来た栄子さん

◇お寺の坊さん「詩」 尋五 石原なを

23日(月)

③涼を追ふ(1) (7月27日(5))まで確認

③足利の名門阿由葉夫人書生と駆落す 良人

は阿由葉代議士の令息 書生は美男 有島事

件の二の舞ひか

24日(火)

④唄はぬ海の詩「詩」 松村清

26日(木)

④気儘な感想 与謝野晶子

④愛に立脚した婦人の力(1) 宮川静枝(談)

- ③ 越路の旅(1) 前橋高女旅行団 森田文子、高藤貞子、三川きく、斎藤安子、勝山幸子、丹沢美助
 ④ 期節の歌「短歌」 豊田宏文
 29日(日)
 ④ 南方フランス文学 星(プロバンス牧童ロマン)ス「小説」 アルフォンス・ドデー著 森戸太郎訳
 ④ うきな「詩」 暮路京之助
 ④ 馬の顔「短歌」 木暮厚平
 ④ 橄欖小観 杉山鶴
 ④ 野菊瞥見 芳太郎
 ④ 権威と権力 高橋元吉
 30日(月)
 ③ 越路の旅(2) 三川きく
 31日(火)
 ③ 越路の旅(3) 斎藤貞子
 大正12年(1923) 8月
 1日(水)
 ③ 小ナポレオンの夢「童話」(1) 山崎三郎
 (8月2日(2))
- ③ 越路の旅(4) 斎藤貞子
 ④ 追憶「小説」(1) 堤松多朗(8月2日(2))
 2日(木)
 ③ いなのめ会「俳句」 胡瓜揉 雨亭、南華、萩郎、仲春、燕青、如友、可憐、曉風、雨村楼、蘇水、蚊 歌男、雨亭、蘇水、雨村楼、南華、萩郎、雄美、燕青、曉風
 ③ 越路の旅(5)
 3日(金)
 ③ 蝸牛と蟬「童話」(1) 大木雄三
 (8月9日(6))
 ③ 越路の旅(6) 勝山幸子、恩田文恵、山田重江
 ④ 農民の自覚を促すまづ農民党を設立せよ 横井農学博士(談)
 ④ 家庭生活の諸条件(1) 小村欣一
 (8月4日(2))まで確認
 ④ 枯れ芒、徂く春「詩」 萩原正
 4日(土)
 ③ 妙義より 北甘閑人
 ④ 青いいちご「詩」 尋六 小野里なつ
 7日(火)
 ③ カメラの旅 高橋一郎
 ④ 性格 榎木純
 ④ 夜のめざめ、今は別れた「詩」 暮路京之助
 ④ 夢の墓にて「詩」 傷々花
 ④ なやみ「短歌」 鈴木如友
 ④ 白すみれ「短歌」 柘植与一郎
 8日(水)
- ④ 科学的智識と人類の生活 大河全正敏
 ④ 近詠「短歌」 角田穂二
 ④ 雑詠「短歌」 小野里照親
 ⑤ 上毛美人伝 出世振袖(1) 水村
 (11月21日(62))
 9日(木)
 ④ 利根の洪水と国民生活(1) 松高元治
 (8月31日(14))
 ④ たまな「詩」 尋五 丑沢まさ子
 ④ 友に逢ふて「短歌」 天田与一
 11日(土)
 ③ 臨海学校(1) 栃工三 住吉新二、桐中四小 滝民雄、尋五 丹羽福太郎
 12日(日)
 ③ 妙義より(再び) 岡部
 ③ 臨海学校(2) 尋六 山田辰雄
 ④ 奥様と或男の話 山辺寛
 ④ 思慕の海「詩」 豊田宏文
 ④ オーバー、ゼ、ヒルを観る 浦野芳雄
 ④ 「宵醒メ」の楽譜とバガボンド「詩」 岡田 刀水士
 ④ ひなげし、秋、天井の低い部屋で「詩」 関 英次
 ④ 雨の降る日 清水久栄
 ④ 海の歌「短歌」 松村清
 ④ 数蚊奴「短歌」 鈴木韋舟
 ④ 独居「短歌」 木暮厚平
 14日(火)
 ③ 臨海学校(3) 桐中一 住吉省三

15日(水)

④ 蝉時雨「短歌」 角田清次郎

16日(木)

④ 新しい玩具と子供の教育(1) 田村耕

(〜8月17日(2))

18日(土)

⑤ 新秋情調(1)

19日(日)

④ 南方フランス文学アールの女「小説」アルフォンス・ドデー著 森戸太郎訳

④ 病に疲れた女性に捧ぐる詩「詩」 岩城寂路

④ 概念陶酔病者「詩」 住谷三郎

④ 黄昏詩篇「詩」 萩原

④ 天笠大録君の死 大槻三好

④ 大録君を悼む「短歌」 金子信三郎

④ 杏の熟れる唄「短歌」 梅之助

④ 神に縋りて「短歌」 神山彰子

④ 美千代、雑詠「短歌」 真下清

④ 春の雨「短歌」 掛川碧穂

21日(火)

④ 初秋夜話 子供の玩具 火花に就いて(1) 茂手木晴明

(〜8月23日(3))

22日(水)

④ 淋しきものの歌える、雀の子「短歌」 神辺

24日(金)

③ 蟋蟀と友たち「童話」 内山頼四郎

③ 鷹江

(〜9月2日(7))

26日(日)

④ 暴風の後 豊田宏文

④ 御宿たより「詩」 暮路京之助

④ 寂しき一隅より 死迷路一線

④ 天笠君の死を悼む「短歌」 吉田緑泉

④ 月あかり「短歌」 木暮厚平

④ 温泉雑詠「短歌」 鈴木如友

④ わが友「短歌」 天田与一

④ 夏の雑感「短歌」 岡庭雅夫

28日(火)

④ 前橋市の水道設置に就て(1) 吉井錦陵

(〜8月29日(2))

④ 留爺さん(1) 湖野百合子 (〜8月29日(2))

29日(水)

④ 川原湯温泉にて「短歌」 高橋冬子

30日(木)

④ 勉学を徹底的に 新学期の初めに当つて学

生諸氏に希望する言葉 遠藤隆吉

31日(金)

③ 法律の新傾向(1) 大沢愛次郎

(〜9月2日(2))

④ 暴発「詩」 梅之助

大正12年(1923) 9月

2日(日)

④ プロレツトカルト運動とインテリゲンチヤ

高山巖

④ 我をみつめて 勇二

④ 軟かき焦点「詩」 序に代ふ、軟かき焦点、

友よ! 戸井田吉夫

④ 月のアルレグロ「詩」 傷々花

④ 静かなる境界「詩」 吉野陽

④ 玉蜀黍の花「短歌」 木暮厚平

④ 一縷のさびしさ「短歌」 豊田宏文

④ 猫の歌その他「短歌」 岡庭政雄

④ 病後に唄ふ「短歌」 松村清

⑤ 突如稀有の大地震襲来 朝の五時から測候

所の地震計に反応を来した昨日の大地震

二十五年以来の強震

3日(月)

① 惨たり帝都焼土と化す 満目凄惨家屋悉く

倒潰 至る処人畜死傷算なし

② 日本帝国の財政経済にも大影響を及ぼす

首都東京事実上全滅

4日(火)

① 緊急勅令公布 非常徴発令出さる 戒嚴令を

発す 東都の不安加はる 不逞鮮人が盛んに

出沒

② 高崎聯隊将卒帝都に入りて不安全く一掃さ

る

② 鮮人入り込む 井水に投毒が目的

③ 群馬県と大書の旗を樹て救護隊出發す

③ 死線を超へて(遭難者の実話)

5日(水)

① 不逞鮮人暴挙と潜入 全く根跡なし 県民は

須らく流言に迷ふな 山岡知事(談)

② 震災大惨事詳報至る

③ 死線を超へて(遭難者の実話)

- 6日(木)
 ③黒煙の沖する天の一角から亡び行く大東京の姿を見る、各務ヶ原の五百三十号飛行機に土屋特務曹長と同乗した。三好大毎記者
- 7日(金)
 ①震災救済数へ歌 岡部
- 11日(火)
 ③本県人の消息(1) (〜9月26日(14))
- 19日(水)
 ③避難者の手記 地震の都から逃れて(1) 柳沢呑天 (〜9月23日(4))
- 21日(金)
 ④大震災に直面して(1) 伊豆夫 (〜9月29日(5))
- 23日(日)
 ④支那の排日問題に面して 支那人の観た支那に就て日支融和に来朝した鄭垂氏曰く(2) (〜9月22日(3)) (2)から確認
 ④大災害見聞記(1) 鶏助 (〜9月29日(4))
- 26日(水)
 ④上世歌謡の本質に就て 鈴木葦舟
 ④感謝 高橋勇
 ④情熱の跡、無題、音楽、古風な思想、赤い実「詩」 朝香冷人
 ④民謡五篇「歌謡」 旅の女に、だまされた恋、意気地ないとして、日は暮る 武井楽葉
 ④旅「短歌」 大竹好太郎
 ④兵隊の歌へる「短歌」 松村文一郎
- 27日(木)
 ③古前橋史蹟(1) 中島吉太郎、佐藤錠太郎 (〜10月5日(4))
 ④建設へ復興へ 震災後の思想界 思想的に与へた衝動は「自然に帰れ」への覚醒 室伏高信(談)
 ④特色のある地方文化を起す事に努められたい 野上俊夫(談)
 ④潤沢な富の力次に生れ出るものは粗野乍ら切実なもの 生田長江(談)
 ④震災後の文芸界 当然現るべき二つの傾向 国土を離れた文明は駄目 小川未明(談)
- 28日(金)
 ③海と空「童話」(1) 徳永寿美子 (〜10月2日(4))
 ④東京博物館の再興 震災の研究資料を蒐集差当りバラック建設か 棚橋源太郎(談)
 ④震災後の美術界 人心を緩和させる為の要求も自然生れ様 川合玉堂(談)
 ④復興「文芸派」起る 踏止る文士と都落の文士
 29日(土)
 ④建設へ復興へ 火保支払には民論が必要である 犬養毅(談)
 ④金融の円滑を期するには政府で資金を貸与されたものである 山成喬(談)
 ④人生は風の吹き廻し 頭山満(談)
 ④五年後には顔触も変わる 震災後の本邦文芸 菊池寛氏の大悲観説
- 30日(日)
 ④震災後の音楽界 不安時代も纏て去り真の音楽時代来らむ
 ④女性雑感 木暮真沙美
 ④地神の憤り、殿下御巡視「俳句」 巖谷小波
 ④野のロマンス「詩」 萩原正
 ④永遠に「詩」 神山胡枝子
 ④浜辺の丘、うしろ姿「詩」 暮路京之助
 ④閑日雑唱、豊秋「短歌」 木暮香坪
 ④晩夏初冬「短歌」 金子利根太
 ④秋田病院にて「短歌」 天田与一
 ④初冬の情緒「短歌」 鈴木葦舟
 ④恩師を尋ねて、ムク鳥、雑詠「短歌」 柳沢千弘
 ④東京の児、雑詠「短歌」 大槻三好
 ④かなしい火事「短歌」 小坂橋逸代
 ④上泉伊勢守「講談」(1) 宝井馬琴 (〜翌年6月17日(20))
- 大正12年(1923) 10月 2日(火)
 ①黄金地獄「小説」(1) 羽様荷香 (〜翌年5月16日(217))
- 3日(水)
 ③帝都復興の私見 川村教郎(談)
 ④新東京 無くなつた名所と新しい名所(1) 砂涛 (〜10月11日(5))
- 4日(木)
 ④「方丈記」中の地震 築地の蔽ひで圧死した物語りや余震の凄さ

④帝都復興と農村の振興策(1) 横井時敬(談)

(〜10月5日(2))

④この一大地変に際して 女性は母であると云ふ信念を一層強くした 山田わか子

④婦人雑誌界は何うなるか 彪大なものより内容本位に変わる

5日(金)

④今後の文芸雑誌界 打撃を受けても復興の意図強し

6日(土)

④代表とは何を意味するか 美名の下に彼此混同すな 外債募集は此の際考へよ 仲小路廉(談)

7日(日)

④このごろの心持 併せて野菊の感想 吉田緑泉

④指輪 藤村千代

④新しき戯曲のために(1) 久保田万太郎

(1)まで確認

④旧作拾集 赤城登山「短歌」 松村清

④畑売り「短歌」 梅沢周一

④滝川短歌会詠草「短歌」 大沢雅休、大花穂、梅沢周一、濠辰巳、久保田瓜丁、掛川

英太郎、赤木山茶花、海沢露草、木村武重、

川端刺青、柳沢千草、田島馨、島田東川

8日(月)

③未曾有の災厄に際して県民の自覚を促す 団十郎の遺孤翠扇旭梅の事実を聞いて 下村善右衛門(談)

10日(水)

③震災後の文芸と郷土の文学者 大木雄三萩原恭次郎二氏の舞台たらんか

11日(木)

④復興へ建設へ 曝露された我が国民性の弱点 冷静なる外人の嗤笑を招かん 蛭川新(談)

④復興都市の空中の防備 上原少将(談)

④北海紀行(1) 新巻校 高橋南嶺

12日(金) (〜12月15日(23))

④復興へ建設へ 商工業復興策に興銀債券を割増付売出 低利の資金を放出提唱 土方久徴(談)

④最後のものを売る 悲惨なムスメ達 公娼廃止より此救済が急務と救世軍が相談所設置

13日(土)

④天空から俯瞰した帝都の焼跡 飛行機便乗記(1) 三ヶ島 (〜10月24日(2))

④近松巢林子の芸術観(1) 中島悦次 (〜11月8日(6))

④頑迷な家庭の子女に却つて欠ける貞操観念

14日(日)

④この頃 浦野芳雄

④秋の雨 金井弥吉

④結婚及恋愛雑感 猪谷梅子

④短詩五篇「詩」 榎田梅之助

④八人集「短歌」 地震 柳沢千弘、寂しき歌 豊田宏文、金山城趾にて 高橋冬子、恋

歌(1) 鈴木葦舟、白瓜、田野滴露、雨蛙

羽鳥露芳、火の海 武井楽葉、海にて 小野里照親

④無題 或る長編の一節 大沢雅休

④春の裸体像「詩」 清水房之丞

④夜の雨「詩」 傷々花

⑤欧米凡くらの記(1) 小松晋助

21日(日) (〜翌年2月9日(94))

④今日この頃 長島健司

④歯科医と石竹の花「詩」 岡田刀水士

④娘 潤三郎

④感謝と芽生への道 金井弥吉

④音響の中に「詩」 五十嵐かのえ

④秋の断章「詩」 吉野陽

④恋の粒花「詩」 暮路京之助

④白雲集「短歌」 燕と雀 鈴木如友、折り折りに 久一、ダリヤ 掛川英太郎、伊香保にて 小野里照親、野に出る日 萩原正、

近頃雑詠 田村時雄、秋情 鈴木英、秋の雑感 柳沢千弘、追憶の秋 柘植与一郎、

大根詩 板東露芳

22日(月)

②東京より(1) 青木 (〜11月8日(8))

23日(火)

②埼玉県下に於ける鮮人虐殺公判 昨日開廷す

⑤震災の混雑に乗じて鮮人妄動 不逞の徒と誤認して高崎で自警団鮮人を半殺し 前橋

地方裁判所発表

25日(木)

- ③震災が人心に影響してか哲学ものが多く読まれる 秋更けた読書のシーズンに

26日(金)

- ③虚偽の無き生活「真」を基として個人即自他の完成を期せ(1) 女子師範学校鈴木教諭(述) (〜10月31日(3))

- ④上毛俳壇「俳句」避難民の秋 狩野桜舟、雑詠 田島彦太郎

27日(土)

- ④不良児は遺伝か? 環境か? 遺伝の力と環境の感化に就いての考察(1) 鶴川宮尾(談) (〜11月2日(3))

28日(日)

- ④六十の手習い 坪内逍遙
④時雨 玻璃子
④線上に起ちて「詩」 佐藤八郎
④秋静か「短歌」 木暮香坪
④こうろぎ「短歌」 高橋冬子
④寂しき心「短歌」 鈴木如友
④秋の小情「短歌」 梅沢周一
④浅間登山「短歌」 粕川重二
④踊「短歌」 小暮正美
④秋雨の夕「短歌」 濠辰己
④平尾君のこと 大木雄三
④断想 萩原恭次郎
④痛い彼の帰国 茂木近之助
⑤藤岡警察署を包囲し鮮人工夫を殺害した自

警団員の殺人騒擾事件の真相

- ⑤不逞鮮人と間違へて内地人を殺す 多野郡

八幡の自警団暴行事件きのふ公判

大正12年(1923) 11月

2日(金)

- ④震災号での稼ぎ高は第一が久米正雄次は里見氏

3日(土)

- ②日本人最初の写真夫れは小栗上野介
④大災害の教訓に顧みよ(1) 井上秀子(談) (〜11月7日(2))

4日(日)

- ④生活雑草 村岡健二
④私ひとりの世界「詩」 高橋赤城
④曇り日 島鶴子
④苦言 井元卯吉
④「郷土」と感想 山口草太郎
④温泉場と響音「詩」 岡田刀水士
④黙考「詩」 岩城寂路
④目が間く「詩」 岩淵刀根男
④五つの影「詩」 清水久栄
④三人集「短歌」 赤城山にて 高橋華水、中曾根巨星、神保冷平
④入営せる友「短歌」 天田与一
④十月「短歌」 金子利根太
④獄中の藤田氏「短歌」 柳沢千弘
④落葉の頃に「短歌」 鈴木葉一
④自炊「短歌」 戸部久一
④秋の衰み「短歌」 小野里照親

6日(火)

- ②藤岡の自警団は何故に多数鮮人を虐殺したか

7日(水)

- ④婦人運動と普選(1) 阪本利郷 (〜11月16日(9))

9日(金)

- ④英国労働党の台頭(1) シドニイ、ウエツプ 佐藤政吉訳 (〜11月30日(9))

11日(日)

- ④秋思篇 萩小路秋良
④逆立「詩」 伊藤信吉
④詩作について 井元卯吉
④悩み、淋しさ、愛 中村芳太郎
④第十回未開地社洋画評 大竹好太郎
④朝寒集「短歌」 子持山麓より 冷平、初秋の歌 松村清、静かなる秋 角田清次郎、出勤途上雑 鈴木葉一、赤城行日記より 柘植与一郎、母病む 小暮正美、草津行 名和鶴子
④秋陽集「短歌」 病窓を開きて 榎田梅之助、榛名行歌 花野清、雑詠 冬子、生活から 田村時雄、秋は寂し 山中作弥、父の墓 田野滴露、なやみ 船津政太郎
14日(水)
③図書館の標語(1) 山田愛華(〜11月15日(2))
④大事に処する婦人平時の修養 三輪田元道
④秋の作三つ「詩」 かのえ
17日(土)

③ 蟻の御城〔童話〕(1) 大木雄三

(〜12月9日(9))

21日(水)

④ 国民教育の破綻 秋田雨雀

④ 普通選挙法案と選挙区制問題 永井柳太郎

④ 今後の新しき劇界に就て 仲木貞一

22日(木)

④ 犬(少年小説) 潤三郎

④ 大地震〔綴方〕 宮城校尋四 森田淑子 他

／お日様〔童謡〕 五十嵐宇三郎 他

⑤ 上毛美人伝 笛吹く娘(1) 水村 (〜12月29日(31))

25日(日)

④ 一言二語(個人と社会) 中村一郎

④ 萎んだグリヤ 川辺潤三郎

④ 犠牲の鮮血 高橋赤城

④ 天譴とお色気 長島健司

④ 私に寄す〔詩〕 萩原正

④ 私のセンチメンタソング〔詩〕 小茂田孤村

④ 夜霧、芒〔詩〕 阿沙野夢路

29日(木)

④ 子供達の好く遊戯と玩具 玩具や遊技からの感化 坂内みつ

④ お月様とお日様〔童話〕 赤城山人

④ 電車の中 高二 湯浅やゑ 他

30日(金)

④ 小さきものゝ芸術

④ 泌々と感じた書物の有難味 今沢慈海

大正12年(1923) 12月 1日(土)

④ 古前橋史蹟の研究(1) 中島吉太郎、佐藤 錠太郎 (〜12月13日(5))

④ 母親の研究(1) 石川千代松(〜12月7日(3)) 2日(日)

④ 童謡私見 清水笑波

④ 第五の女〔詩〕 清水房之丞

④ 涙 小暮真砂美

④ 小さい詩〔詩〕 堀川一郎

④ 米飯と初恋〔詩〕 ユタカ

④ 歌壇への公開状 山口草太郎

④ おんじゆく夜の夜、野なでしこ、見送りし度いと、宵月夜、下弦の月が〔詩〕 暮路京之助

④ 歌集「草の芽」を読む 角田蒼穂

④ 菊咲く頃〔短歌〕 みさを

4日(火)

③ 郷土文化の開発を企図し上毛文化会生る

5日(水)

④ 秋の景色 室田校高二 大久保七三 他

④ 或る日の出来事(少年小説) 岡田きよみ (〜小さきものゝ芸術)

7日(金)

④ 室田校十全会〔俳句〕 松華、茂子、松月、心泉、五風、俳魚楼

9日(日)

④ 愁情曲三篇〔詩〕 転回、心配なき月夜、詩

④ 冬の詩篇〔詩〕 ざんげ、みにくい建築、移動音楽会、女 ひでまろ

④ 十月の午後〔詩〕 吉野陽子

④ 秋今昔〔詩〕 傷々花

④ 拾った命、焼野原、沖にちらちら〔詩〕 暮路京之助

④ 桐生橋伋偶〔短歌〕 鈴木葉一

④ 登山雑詠〔短歌〕 鈴木如友

④ 雑詠〔短歌〕 松村清

④ 中山峠〔短歌〕 冷平

④ 晩秋の自然に〔短歌〕 高橋赤城

④ 秋深し〔短歌〕 豊田宏文

④ 土産の親み〔短歌〕 小野里照親

④ 冬雑詠〔短歌〕 天田与一

④ 夕こぼろぎ〔短歌〕 金子利根太

④ しゆろの葉〔短歌〕 粕川重二

④ 案山子〔短歌〕 柳沢千弘

④ 焼原の中〔短歌〕 木暮香坪

④ 母に別れて〔短歌〕 大友賢六

④ 冬ざれ集〔短歌〕 濠辰己、芹沢喜一、浜中 鄰、船津政太郎、榎田梅之助、柳田敏三、 笹川芳彦、石川晴朗、戸部久一、田村時雄

11日(火)

③ 世界外交の枢軸としての石油と石炭の争奪

(1) 石本恵吉(述) (〜12月13日(3))

12日(水)

③ 人魚の親子〔童話〕(1) 小松みどり (〜12月16日(3))

- ④少年ワシリイ(少年小説) (1) もぎひろし
 (12月19日(2))
- 14日(金)
 ④帝都と地方とは両立すべきでない(1) 安藤
 広太郎 (12月15日(2))
 ④家庭電化の話(1) 砂田 (12月27日(7))
- 16日(日)
 ④戯曲十字架上の国定忠次 正田文治
 ④小さなセンチメンタリスト「詩」 堀河ゆ
 め (12月23日(5))
 ⑤漫遊雜観(1) 葉住利蔵 (12月28日(11))
- 18日(火)
 ④食物は学理より経験を主とす 菜食の日本
 から肉食の日本への推移 遠藤隆吉(談)
 ④あき家「詩」 大槻三好
 ④日曜の午前 島の郷校 石川金太郎 他/先
 生を送った日「詩」 同 森嘉一郎 他/服
 部先生を送る「短歌」 同 石川やま 他
 <小さきものゝ芸術>
- 20日(木)
 ④お山の娘「詩」 赤城楓湖
 ④教育界の一年を顧みて(1) 岡田怡川
 (12月21日(2))
- 21日(金)
 ③駒鳥と酒「童話」(1) 小川未明
 (12月25日(4))
 ④帝都復興は即ち農村振興なり 東京が衰弱
 すれば地方も亦衰弱せん(1) 田川大吉郎
 (談) (12月22日(2))
- 22日(土)
 ④建築の話(1) 田村耕 (翌年1月10日(6))
 ⑤墓参「小説」(1) 中村将為
 (翌年1月12日(9))
- 23日(日)
 ③我国労働運動は将来経済的にも又た政治的
 にも実際の方向を取つて進まん(1) 鈴木
 文治(談) (12月28日(4))
 ④雑感 鳴沢秋暮
 ④死を弄ぶ男「小説」 大竹好太郎
 ④アマウンテインラブ「小説」 緑郎
 ④戯曲十字架上の国定忠次を評す 清水房之
 丞
 ④「郷土」の編輯者に与ふ 大堀勘衛
 ④怠惰詩篇「詩」 美人図会、妄想、怠惰、変
 態、詩人、美学者 清王寺秀丸
 ④短詩十四篇「詩」 中島雨郷
 ④愛憐「詩」 伊藤信吉
 ④寂しい足跡「詩」 柘植与一郎
 ④眸、涙「詩」 冬子
 ④沈殿した心「詩」 堀川白亜
 26日(水)
 ③バラックの上を照らす太陽「童話」(1) 秋
 田雨雀 (12月28日(3))
 ④酒井氏時代に於ける厩橋城趾史蹟(1) 佐藤
 錠太郎 (12月27日(2))
- 27日(木)
 ④日本婦人の四つの要求に就て(1) 市川源三
 (12月28日(2))
- 28日(金)
 ④年を越せぬ人 木名瀬虎雄
 ④厩橋城の歴史(1) 佐藤錠太郎
 (翌年1月12日(2)) <回数不明>
 大正13年(1924) 1月
 1日(火)
 ②上毛風土の教化 遠藤隆吉
 ⑥ゆすらんめ「童謡」 桐生北校尋六 森夕二
 他/私の家「綴方」 中郷校尋三 高橋ふ
 み 他/雨ふる朝「童謡」 上郊校高一 大
 塚金行 他/かれた草「詩」 附属校尋三
 佐藤妙子 他
 ⑥思ひ出(少年小説) 関口好夫
 <上毛こどもページ>
 ⑦桜草の話 浅川英一
 ⑨生大黒 春風亭川柳(演)
 ⑩児童躰方方針に就て 越川弥栄
 ⑬笛吹きと鼠と子供「童話」 福田正夫
 ⑳或弁護士と私(1) 奥野他見男
 (1月5日 <回数不明>)
- 3日(木)
 ③上毛美人伝 甲子お静(1) 水村
 (3月8日(48))
- 5日(土)
 ④細い木の幹 大沢雅休
 ④初冬庭後、又「詩」 高橋元吉
 ④暖国の昼「詩」 井元卯吉

- ④夢三題 住谷三郎
④もみづる山々「短歌」 吉田緑泉
- ③七草集「短歌」病春遣思 金子信三郎、北風吹く 松村俊郎、身辺雑唱 鈴木葉一、愛しき児等に 東京の児 大槻三好、病みて 鈴木如友、年暮悲唱 真下清、落日の頂 天田与一
- 7日(月)
③日米貿易今昔断(1) 小松晋助訳補 (1月10日(4))
- 9日(水)
③教育と文芸の関係(1) 福田謹四郎(談) (1月10日(2))
- ③佐渡沢尻右衛門 前橋出身の名力士 江戸角力の大関 佐藤錠太郎
- ④新年歌会 宮中に於ける新年の御式 館山前橋高女校教諭(談) (1月11日(3))
- ④通俗講話 幸福への途(栄養第二)(1) たかはし (1月11日(3))
- ④お白粉花(小唄)「歌謡」 京之助
- ④野路行きつゝ「短歌」 梅沢周一
- ④赤城山「短歌」 六本木政男
- 10日(木)
④御成婚近き東宮殿下良子女王御生立(1) (1月24日(9))
- ④姉の看護に「短歌」 柳沢千弘
- ④信濃にて「短歌」 小野里照親
- ④深夜短唱「短歌」 山口草太郎
- 11日(金)
- ③農村振興と衛生(1) 高木衛生課長(談) (1月15日(4))
- ③農民生活独立論(1) 阪本利郷 (1月17日(5))
- ④眼にしむ煙「短歌」 鈴木葦舟
- 12日(土)
④或る少女「詩」 芳太郎
- ④通俗講話 正月の遊びは平和の気分を養ふために(1) 吉井錦陵 (1月17日(3))
- 13日(日)
④情死未遂 川辺潤三郎
- ④望郷 新井紀一
- ④びわの花「詩」 中川雨郷
- ④残飯「詩」 大竹好太郎
- ④冷たき夜「詩」 伊藤信吉
- ④病感「詩」 はくあ
- ④直立のせつぶん「詩」 永井涙二
- ④薄暮を歩む「詩」 金子茂一
- ④村の家にて「短歌」 大沢雅休
- ④四十雀の歌「短歌」 粕川重二
- ④寒さは襲ふ「短歌」 豊田宏文
- ④昼月、いのち「短歌」 榎田白路
- ④深秋「短歌」 船津重雄
- ④雑詠「短歌」 船津政太郎、あき江、武麗舟、福田喜久治、萩原憲三、福島三郎、斉藤一露樹
- ④初冬「短歌」 芹沢喜一
- ④吾をたづねて「短歌」 横山泰輔
- ⑤封切阿呆陀羅經 農銀新年会の余興 北甘
- 閑人
- 16日(水)
④結婚に就いて(1) おほしま(1月18日(3))
- ④浅間小唄「歌謡」 暮路京之助
- 18日(金)
④ほたる草 五女横堀みつ
- 19日(土)
④風の神(童謡) 尾林富美
- ④通俗講話 映画芸術に就ての一考察(1) 糸光郎 (1月24日(4))
- 20日(日)
④春風よ沃野を吹きわたれ 茂木実
- ④けしの実「詩」 南あきら
- ④働くもの 川俣あいか
- ④岩櫃山「短歌」 冬子
- ④体刑 木名瀬虎雄
- ④生れよ土の芸術(ある日の雑感) 中沢静雄
- 23日(水)
⑤漸次堅実味を帯て来た農村の青年処女説書趣味
- 25日(金)
④通俗講話 一言二語(普選と無産階級)(1) 中村一郎 (1月31日(3))
- ④玉村新年短歌会「短歌」(1) 大沢雅休、大堀花穂、設楽一鶴、山田曲成、野口市郎、羽鳥武重、板居汀星、倉田真三、濠辰己、渡辺てい、渋谷清子、川端静枝、田島きよし、梅沢周一、柳沢千弘、掛川英太郎、山田かほる、川端刺青

大正13年(1924) 2月

3日(日)

④残された妻の場合(1) もぎちかの介

(〜2月10日(2))

④『草の芽』を読み 中村星湖

④糸井愛氏に「短歌」 天田与一

④病春遺思「短歌」 金子信三郎

④寒日抄「短歌」 角田青二郎

④蒼白い生活「短歌」 田村時雄

④東京の児へ「短歌」 大槻三好

④恋愛私語「短歌」 真下清

④寒夜雑談三篇「詩」 恐ろしき女の話、冬夜の話、結婚を破る話 清水房之丞

④水のほとり「詩」 中嶋雨郷

④偶作「詩」 堀河はくあ

④夕ぐれ「詩」 前原美春

④まづしい花輪「詩」 榎田白路

5日(火)

④農村問題と農村教育(1) 大野好英(談)

(〜2月8日(3))

④映画劇としての旧劇及び映画劇と純映画劇に就いて 吉田頭雄

7日(木)

④落葉惜情「短歌」 鈴木葉

8日(金)

④暴風「小説」(1) 豊田宏文(〜5月7日(44))

④河畔の夕「詩」 金子茂一

9日(土)

④映画芸術の一考察 木暮恒三郎

10日(日)

④春は甦る「詩」 松山しげる

④小鳥のこと よね子

④或る日(1) 角田恒 (〜2月17日(2))

④如山会及び「松かさ」に就て 松浦一

④山居の冬「短歌」 山王爛魚

④足病みて「短歌」 夕暮まさみ

④三島詣「短歌」 梅沢周一

④侘しき冬「短歌」 小幡三千夫

④近頃の雑詠「短歌」 柳沢千弘

④冬の雑詠「短歌」 冬子

④泣く児に「短歌」 粕川重二

④空嘘「短歌」 三島涼葉

④雑詠「短歌」 大竹好太郎

④河原の冬「短歌」 石川清朗

13日(水)

④人の外的印象 与謝野晶子

17日(日)

④おれの顔 夕暮まさみ

④牧場の夕「詩」 山岸秀雄

④紅涙「小説」 木名瀬虎雄

④浮浪者の独眼「詩」 佐藤八郎

④こほろぎの唄、穂芒の唄、夜の渚に「詩」 暮路京之助

④俺の心「詩」 高橋赤城

④きちがひじみた秋の夜中「詩」 永井涙二

④ひとりに飽きて「詩」 榎田かほる

④蛇酒を飲む「短歌」 堀河はくあ

20日(水)

④映画芸術への期待 其発局を阻止する条件

(1) 楠田敏郎 (〜2月24日(4))

21日(木)

③座敷牢の内より 謹んで県会議員諸卿に呈す(1) 倉田春造(〜5月15日(回数不明))

22日(金)

④新に発見された女子の不平等(1) 井上秀子 (〜2月23日(2))

24日(日)

④エッセイ管見 白石重一

④鴨緑江節(一幕)「戯曲」(1) 堺明平 (〜3月2日(2))

④交歓の春「詩」 松山しげる

④白梅集「歌謡」「詩」 民謡二篇 かぜきみで、牡丹刷毛 暮路京之助、訣れ 麻の葉、雪明

り、流れ星 阿沙野夢路、昨日の恋、落ち葉 南あきら、恋の序曲 堀河はくあ

④天竺大録遺稿を読み(1) 大沢雅休 (〜3月2日(2))

④浴泉余情「短歌」 角田青二郎

④春の埃「短歌」 鈴木葦舟

④如月雑吟「短歌」 小野里照親

④冬の歌(藪塚にて)「短歌」 柿沼月歌

④高原の旅より「短歌」 高橋かつじ

26日(火)

④電燈盗用の話(1) 砂田 (〜2月29日(4))

27日(水)

④深山の愛(船頭小歌の譜) 青木茂

④上毛柳壇「川柳」不覇、潜竜子、岩の家、

寸鉄、里風、六中、さつき、女之助、茶氣
満、五釘、鈍太郎、利川、六花、清笑坊、
子之坊、呑気坊、豚馬、蛮唐、樽天王、秋
山紅、銀坊

28日(木)

④通俗講話 最近の児童劇(1) 梅沢

(3月1日(3))

29日(金)

④梅[詩] 古谷野茂登子

大正13年(1924) 3月

2日(日)

④凡ては与へらる 加藤紅之介

④三味線草[歌謡] 芝草は唄ふ 富沢庄次、
稗めく者 嵯峨虹二、あこがれ 設楽喜久
子

④或る会話 県下の文芸雑誌等について 大
鴉

④亡父思慕[短歌] 大槻三好

④旅[短歌] 大竹好太郎

④早春[短歌] 山王爛魚

④断想[短歌] 冬子

④きさらぎの雨[短歌] 武国衛

④ふるさとさみし[詩] 正田文治

④冬の日子し[詩] 川島治

④空漠な日[詩] 高橋赤城

④胃を病む男[詩] 涼葉

④子守歌をきく[詩] 金子茂一

④曠野の路[詩] 戸部久一

④無題[詩] 前原美春

4日(火)

④夕やけ[詩] 古谷野茂登子

5日(水)

④上毛柳壇[川柳] 春山、豊山、前田、配小
僧、無名生、荒井、利川、不覇、狂獅子、
茶目坊、北浪、芳水、風勇、羽鳥、香川、
志人、竹守、子山坊、春風、里風、拙老、
増田

6日(木)

④上毛柳壇[川柳] 里風、寸鉄、香川、凸
坊、潜竜子、一福、不覇、秋山紅、豚馬、
楽天子

7日(金)

④上毛柳壇[川柳] 寸鉄子

⑤上毛美人伝 烈婦子亥(1) 水村

8日(土)

④上毛柳壇[川柳] 自動車 突飛庵、冬扇
坊、手腕坊、六中、岩の家、北浪、清笑坊、
里風、煙霞郎、不覇、豚馬

④通俗講話 パンジェーの話(三色スミレロー
マンス) 中村芳太郎

④映画愚談(1) 木暮

9日(日)

④愛への信仰 加藤義夫

④新短歌聯盟 水村

④童謡三章[童謡] ゆき 大槻三好、小鳥

④私が存在 吉田洋

④私が存在 吉田洋

④哀唱篇 澄香の靈に捧ぐ[詩] 中島雨郷

④鴨緑江節(一幕)[戯曲] 堺明平

④枇杷の花[詩] 松山しげる

④温泉村の思ひ出[詩] 吉野陽

④春の日曜[詩] 後藤福太郎

④むさび[短歌] 冷平

④父病む[短歌] 鈴木如友

④遅日抄[短歌] 田村時雄

④疲れと愚痴 榎田薫

④在營の友婦省[短歌] 小林康雄

④上毛柳壇[川柳] 無名生、溪流、凸坊、蛮
唐、拙老、里風、秋山紅、利川、六中、豚
馬、銀坊、不覇、女之助、寸鉄、豚太郎、
潜竜子

④上毛柳壇[川柳] 白粉 冬扇坊、突飛庵、
豚馬、寸鉄、潜竜子、岩の家、手腕坊、利
川、蛮唐、女之助、里風

④古前橋史蹟研究(1) 中島吉太郎、佐藤錠太
郎

④上毛柳壇[川柳] 意見 梅香、寸鉄子、釣
橋、狂獅子、突飛庵、銀坊、二茶、女之助、
手腕坊/俤 突飛庵、手腕坊、煙霞郎、釣
橋、寸鉄子

14日(金)

④上毛柳壇[川柳] 手腕坊、潜竜子、かつ
ら、梅香、豚馬、女之助、多珍坊、寸鉄

16日(日)

④兄と弟「小説」 有地長谷夫

④多忙「小説」 梅沢周一

④愛は悲しハリソン老人 戸井田吉夫

④たいくつな縊首、もだえ、子守唄「詩」 青

月夜弥駄六

④概念の遊戯「詩」 冷泉秋平

④さびしい集団「詩」 砂原毒泉

④不安「詩」 涼葉

④山国は暮れる「詩」 堀河はくあ

④雪の夜「詩」 小野里照親

④癒さる罪ある大喧嘩を見て「詩」 笹川芳彦

④生きる事の価値「詩」 森大喜治

④早春(口語歌) 習作の一「詩」 茂木近之助

④淡雪「短歌」 鈴木葦舟

④家評数首「短歌」 天田与一

④寒菜まき「短歌」 梅沢周一

④若葉集「短歌」 榎田白路、嵯峨虹一、北田

豊司、船津政太郎、柳沢きみゑ

18日(火)

④上毛柳壇「川柳」 冬扇坊、香川、*岸、空

つ風

19日(水)

④上毛柳壇「川柳」 稻荷 突飛庵、潜竜子、

さつき、釣橋、竹坊、手腕坊、利川、蝶々、

不覇、凸突庵／御神籤 手腕坊、貞文、利

川、不覇、北浪、凸突庵、梅香、さつき、

清笑坊、潜竜子

④医者満州日記(1) 新井

〈5月16日(8)まで確認〉

20日(木)

④農民は真に農民として体験のある代議士を

送れ 山崎延吉(談)

21日(金)

④上毛柳壇「川柳」 看板 蝶々、凸飛庵、里

風、不覇、潜竜子、岩の家、冬扇坊、梅香、

紅酌

23日(日)

④痴者の手記 上田えいじ

④雪の日に「短歌」 川口草太郎

④女を殺す「詩」 正田文治

④柳の銀芽「詩」 中嶋雨郷

④兄と弟 有地長谷夫

④砂場のぼくち「詩」 砂原毒泉

④確かな所有 豊田宏文

④土曜日の午後「小説」(1) 吉野陽

〈(1)まで確認〉

④春雑詠「短歌」 岡庭浅吉

④春の雨「短歌」 藤倉肇

25日(火)

④刀剣研磨に就て(1) 高橋 〈3月29日(5)

26日(水)

③京都博より 香雨

27日(木)

④上毛柳壇「川柳」 客 紅酌、無名生、冬扇

坊、凸飛庵、一福、溪流、潜竜子、無稽

⑤上毛美人伝 金簪お蝶(1) 水村

〈4月12日(10)〈中絶〉〉

30日(日)

④深秋回顧 柘植与一郎

④酔の歌、火事の歌「短歌」 小野里照親

④茂木氏の口語歌を難ず 赤井亞夫

④途上にて「短歌」 冬子

④群衆「小説」 川端義夫

④レアンデルとヘロ「詩」 戸井田吉夫

④麗日集「短歌」 永井涙二、船津重雄、福島

三郎、関根四五郎、武国衛、五十嵐正雄、

福田喜久次、船津政太郎、富沢庄次、斉藤

市次郎、笹川芳彦